



*The Japanese
Society of
Toxicology*

**Vol. 37 No. 2
April 2012**

毒理学ニュース

日本毒性学会

The Japanese Society of Toxicology

毒性学ニュース

Contents

日本毒性学会からのお知らせ

追悼文 村野 匡先生のご逝去を悼む	17
第 15 回日本毒性学会基礎教育講習会案内	18
第 15 回日本毒性学会基礎教育講習会日程 (予定)	19
第 13 回日本毒性学会生涯教育講習会案内	20
第 15 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験	21
第 39 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 5 報)	22
第 6 回アジア毒性学会学術集会 (ASIATOX-VI) のご案内 (第 3 報)	25

その他のお知らせ

シンポジウム モレキュラー・キラリティー アジア 2012	27
第 19 回 HAB 研究機構学術年会 創薬開発の迅速化を目指して	27
第 19 回日本免疫毒性学会学術大会	28
国際薬理遺伝学研究連合 GAP シンポジウム 「ゲノム医療の新時代 2012」の開催について	28
第 22 回生殖・発生毒性学東京セミナー	29

J. Toxicol. Sci. 投稿規定

入会案内／変更手続き

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

追悼文

村野 匡先生のご逝去を悼む

日本毒性学会名誉会員、村野 匡先生は平成 23 年 12 月 27 日に脳梗塞のため御逝去されました（享年満 92 歳）。先生の突然の訃報に接し、在りし日の村野先生の厳しい中にも慈愛に満ちたお姿を想起し、謹んで哀悼の意を表します。学会の事務局からこの追悼文の依頼を受けた時には、私が適切な立場であるかについて一瞬躊躇しましたが、和歌山県立医科大学薬理学教室の岸岡史郎教授が日本薬理学雑誌に追悼文をお寄せになっておられますので、岸岡教授のお許しを戴き、同教室の木口倫一先生のご協力でお写真と資料を拝借致しました。まずは冒頭に御礼申し上げます。

私が先生と一緒に学会のお仕事をする契機になったこと、先生のお人柄などについて以下に申述べ、追悼文とさせていただきます。

本学会の会員 No. 1 が村野先生であること（学会事務局の長谷川映理奈さんにお聞きしました）が物語っているように、村野先生は本学会の前身である毒作用研究会の生みの親のお一人です。先生が財務担当理事の時に、「年会費を連続で滞納する会員は除名する」とのきついお手紙を受け取りました。私は自分の会費滞納の立場をも顧みずに、直ちに「学会はお金集めが目的である筈はなく、会費滞納の理由のみで除名するのは的外れではないか」と反論した手紙を先生個人宛にお出しました。その後ご返事を戴き、これが契機となってそれ以降、学会でお会いする度に村野先生は私をあたかも先生の一教室員のように非常に親密に接して下さいました。

村野先生は 1986 年民間企業所属の年会長として初めて学術年会を主催されました。併せて同時に開催の第 4 回国際毒性学会（ICT IV）の成功にも大きく貢献されました。

1990 年前後の学会の取り組みは毒科学研究の近代化を目指して、毒作用の機序解明に化学物質の毒性を発現する臓器・組織由来の培養細胞を取り入れること、とりわけ肝細胞の 3 次元培養を如何に進めるかを議論しました。先生は学術研究推進委員会副委員長として、又特別委員会をリードされ、幾つかの可能性を学会として確立する必要があるとの結論に達しました。その中で、温度感受性ポリマーを培養シャーレに塗布して作成した肝細胞のスフェロイド形成に素晴らしい業績を上げていた若手研究者のお一人、竹

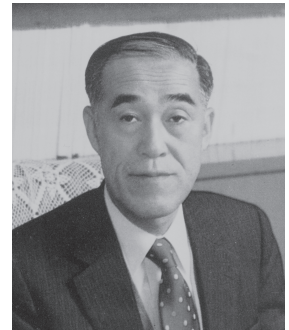
澤俊明先生（現 独 農業生物資源研究所上級研究員）を厚木市のグレース ジャパン 株, W. R. Grace 日本中央研究所に村野先生と 2 人で見学に訪れ、竹澤先生をビックリさせた事がありました。当時の先生は 70 歳近かったと思いますが、あたかも竹澤先生と同年代の若手研究者のように、実に詳細な鋭い質問を連発しておられた姿には敬服以外の言葉が見当たらず、真の研究者には年齢が全く関係しないと痛感しました。

村野先生のお人柄の一端は、先生の学長ご退任後のお姿が如実に物語っております。お若くして学長（専任）になられた

ので 8 年間の任期満了時は 58 歳で、その後は大学を離れ、製薬企業に所属されました。先生は略歴にもお示しましたが、大陸生活からくると思われる気骨のあるお人柄で、民間の経験を新入社員として一から始められました。村野先生は“和歌山の厚生大臣”と称されておりましたが、“大臣”から一 MR としての仕事を開始された訳です。和歌山医大での教え子の若い臨床医の先生に面会するために民間病院の外來の椅子で 3 時間待たされた挙句に、「アッ、先生未だ待っていたのか」と言われた時の率直な悲しいお気持ちをしみじみと話されたのを昨日のように想い出されます。

以上のように、ご自分を決して偉ぶらない態度の村野先生のような研究者は極めて稀有であり、私は今後少しでも先生を見習っていきたくと痛感しております。深い悲しみと感謝の意を込めて、村野匡先生のご冥福をお祈り致します。

遠藤 仁（杏林大学名誉教授）



村野 匡先生

(1919/11/4 - 2011/12/27)
 京城帝国大学医学部卒業
 (1944/9/21)
 大阪市立医科大学薬理学助手、
 講師、助教授 (1949 - 1959)
 和歌山県立医科大学教授
 (1959 - 1970)
 和歌山県立医科大学学長
 (1970 - 1978)
 和歌山県立医科大学名誉教授
 本学会（毒作用研究会・日本毒科学会）
 理事
 (1981 - 1987)
 第 13 回日本毒科学会学術年会長
 (1986)

第 15 回日本毒性学会基礎教育講習会案内

日本毒性学会
 教育委員会委員長 鍛冶 利幸
 基礎講習会小委員会委員長 務台 衛

基礎教育講習会は、トキシコロジストの系統的な基礎教育あるいは再教育を目的としております。集中講義によって毒性学全般にわたる理解を深めたうえで、秋季に開催されます第 15 回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験の受験にお役立て下さい。尚、本講習会を受講されますと認定試験受験資格のための評点 40 点が付与されます。また、認定トキシコロジスト資格更新の際の評点獲得の対象にもなります。

受講を希望される方は、下記の受講申込方法でお申込み下さい。受講料入金の確認後、追って受講案内及び資料をお送りします（7月中旬頃）。

1. 日 時

2012年8月6日（月）～ 8日（水）

*詳細につきましては次頁「日程（予定）」をご確認下さい。

2. 会 場

東京大学農学部 1号館
 （東京都文京区弥生 1-1-1）

3. 募集人数

150名（先着順）

4. テキスト

「[新版] トキシコロジー」(朝倉書店, 2009年刊)の内容を中心に講義を行います。参加者はあらかじめ書店等で購入することをお勧めします。正誤表は学会ホームページに掲載されています。

教育委員会事務局でもテキストの申込みを受け付けております。①氏名②会員番号③送付先住所④電話番号⑤冊数を明記の上、メールまたはFAXでお申込み下さい。

5. 受講申込および受講料

1) 申込期間

2012年6月4日（月）～ 7月6日（金）

2) 申込方法

会員の方は本号に添付の郵便振替用紙に必要な事項をご記入の上、受講料をお振込み下さい。

非会員の方は郵便局に備え付けの振替用紙に氏名、所属、受講案内送付先郵便番号、住所、連絡先電話番号をご記入の上、下記振替口座までお振込み下さい。

郵便振替口座番号：00150-9-426831

加入者名：日本毒性学会

3) 受講料

一般会員：25,000円 学生会員：10,000円

非会員：35,000円

認定トキシコロジスト：20,000円(2～3日受講)
 10,000円(1日受講)

*一旦振込いただきました受講料は、理由の如何に関わらずご返金致しませんのでご了承下さい。

*領収書につきましては、振込時の振替払込請求書兼受領証に代えさせていただきます。

4) その他

昼食は各自ご用意下さい。講義室内での飲食は可能です。

6. 問合せ先

日本毒性学会 教育委員会
 〒160-0016 東京都新宿区信濃町 35 信濃町煉瓦館
 (財)国際医学情報センター内
 TEL：03-5361-7075 / FAX：03-5361-7091
 e-mail：educ-group@umin.ac.jp

第 15 回日本毒性学会基礎教育講習会日程 (予定)

月 日	#	時 間	学 科 目
8月6日 (月)		9:00 - 9:15	受付, 委員長挨拶・オリエンテーション
	1-1 (1:00)	9:15 - 10:15	毒性学の基本概念
	1-2 (1:30)	10:25 - 11:55	規制毒性試験法, 実験動物及び統計手法
	1-3 (1:00)	12:05 - 13:05	毒性発現機序
	1-4 (1:30)	13:50 - 15:20	動態・代謝, トキシコキネティクス
	1-5 (1:00)	15:30 - 16:30	臓器毒性・毒性試験 (1) (神経行動毒性)
	1-6 (1:00)	16:40 - 17:40	臓器毒性・毒性試験 (2) (循環器毒性)
8月7日 (火)	2-1 (1:30)	8:45 - 10:15	臓器毒性・毒性試験 (3) (肝毒性, 腎毒性)
	2-2 (1:15)	10:25 - 11:40	臓器毒性・毒性試験 (4) (消化器毒性, 呼吸器毒性, 皮膚・粘膜毒性)
	2-3 (1:00)	11:55 - 12:55	臓器毒性・毒性試験 (5) (内分泌毒性, 運動器毒性, 感覚器毒性)
	2-3 (1:15)	13:40 - 14:55	臓器毒性・毒性試験 (6) (血液・造血毒性, 免疫毒性)
	2-5 (1:00)	15:05 - 16:05	臓器毒性・毒性試験 (7) (遺伝毒性)
	2-6 (1:00)	16:15 - 17:15	臓器毒性・毒性試験 (8) (発がん性)
8月8日 (水)	3-1 (1:00)	8:45 - 9:45	臓器毒性・毒性試験 (9) (生殖発生毒性)
	3-2 (1:30)	9:55 - 11:25	化学物質の有害作用 (1) (医薬品・化粧品, 食品・食品添加物)
	3-3 (1:00)	11:35 - 12:35	化学物質の有害作用 (2) (農薬, 工業用化学物質, 天然毒性物質, 金属, 臨床中毒)
	3-4 (1:00)	13:20 - 14:20	毒性オミクス・バイオマーカー
	3-5 (2:00)	14:30 - 16:30	リスクアセスメント・マネジメント 環境毒性 (環境汚染物質), 放射性物質, 紫外線, ナノマテリアル
		16:30	受講証明書配布

第13回日本毒性学会生涯教育講習会案内

日本毒性学会

教育委員会委員長

鍛冶 利幸

生涯教育小委員会委員長

鈴木 雅実

本講習会は一日で3コース学習するフレームに改変し「①トピックス：新しい科学及び技術に関する最新のトピックスを学習する。②臓器毒性：各種臓器の毒性反応についてメカニズムを含め深く学習する。③SD育成講座：試験責任者として試験結果の解釈・理解・評価を深める為の知識を学習する。」ニーズに応じて受講者が選択できる新講習体系に致しました。2012年は①「トピックス：新しいアプローチ」、②「臓器毒性：神経系・循環器系」、③「SD育成講座：非病理学者のための病理学講義」について講義していただきます。非会員の方も参加できます。

なお、本講習会は、JSOT認定講習会となっており、認定トキシコロジスト認定試験受験資格の評点獲得、および認定トキシコロジスト資格更新の際の評点獲得の対象となります。詳細はJ. Toxicol. Sci. またはホームページの『認定トキシコロジストの認定制度規定』をご覧ください。

受講を希望される方は、右記の参加申込方法でお申し込み下さい。参加費入金の確認後、追って受講案内及び資料をお送り致します（6月下旬頃）。

1. 日時

2012年7月16日（月）

①トピックス：新しいアプローチ 10：00～13：00
毒性試験における最新の手法・技術の導入
：新しい科学進展に伴う科学的技術
－米国SOT学会でのContinuing Education Course
の議題をもとに－

五十嵐勝秀 先生（国立医薬品食品衛生研究所）
鈴木 睦 先生（協和発酵キリン株式会社）

休憩（13：00～14：00）

②臓器毒性：神経系・循環器系 14：00～17：00
最新の科学を含めて毒性発現メカニズムをin vitro
及びin vivoから解説し、試験法及び結果の解釈について学習する

神経系：ガイドラインに基づいた脳神経系の安全性
評価を中心に（仮題）

高橋 宏明 先生（日本たばこ産業株式会社）
循環器系：薬物誘発性循環器毒性

－機能的および器質的变化について－

千葉 克芳 先生（第一三共株式会社）

③SD育成講座 17：00～18：00
：非病理学者のための病理学講義
IUTOXでのContinuing Education Courseの議題
をもとに

鈴木 雅実 先生（中外製薬株式会社）

2. 会場

ホテルメトロポリタン仙台

（〒980-8477 宮城県仙台市青葉区中央一丁目1-1）

※別会場にて認定トキシコロジスト懇親会を開催致します。認定トキシコロジストの先生方のご参加をお待ちしております。

日時：18：30～20：30（予定）

会場：ホテルJALシティ仙台 レストラン ジョリー
（〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院1-2-12）

会費：3,000円（当日4,000円*）

定員：70名

3. 参加申し込みおよび参加費

1) 申込期間

2012年3月1日（木）～ 6月8日（金）

2) 申込方法

J. Toxicol. Sci. 2月号（Vol. 37, No. 1）に同封、または郵便局備付けの郵便振替用紙に氏名、所属、受講案内送付先住所、連絡先電話番号をご記入の上、下記振替口座までお振込み下さい。

振替口座番号：00150-9-426831

加入者名：日本毒性学会

3) 参加費（1日フルコースとして設定）

会員 5,000円（当日7,000円）

非会員 7,000円（当日10,000円）

認定トキシコロジスト 3,000円（当日5,000円）

*お振込みいただきました参加費は、理由のいかんにかかわらず返金致しませんのでご了承下さい。
*領収書につきましては、振込時の振替払込請求書兼受領証に代えさせていただきます。

*認定トキシコロジスト懇親会にご参加される場合は合算金額をお振込ください。（当日の受付人数は、定員等により制限させていただきます。）
準備の都合上、出来るだけ事前申込をお願いします。

4. 問い合わせ先

日本毒性学会教育委員会

〒160-0016 東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館

（助国際医学情報センター内）

TEL：03-5361-7075 / FAX：03-5361-7091

e-mail：educ-group@umin.ac.jp

第15回日本毒性学会認定トキシコロジスト認定試験

日本毒性学会

教育委員会委員長

鍛冶 利幸

認定試験小委員会委員長

広瀬 明彦

下記の要領で認定試験を実施いたします。

受験希望者は J. Toxicol. Sci. またはホームページに掲載の「日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」を熟読の上、出願して下さい。

出願時に提出された書類に基づく書類審査で上記規定に記載されている一定の基準に達しない場合は、認定試験を受けることができませんので出願に際してはこの点に十分に気をつけて下さい。

書類審査で受験資格が認められた場合、試験日の10日前までに受験票をご本人宛送付いたします。

試験当日は必ず受験票を持参して下さい。

1. 日時

2012年9月30日(日) 9:15～16:30

2. 会場

昭和大学 4号館 600号
(東京都品川区旗の台 1-5-8)

* 東急池上線・大井町線

旗の台駅東口下車 徒歩5分

3. 出願期間

2012年7月2日(月)～8月14日(火)(必着)

4. 出願書類

- 1) 願書と受験者確認票
- 2) 写真 2枚(縦3.5cm×横3cm)
(願書と受験者確認票の所定欄に貼付)
- 3) 認定試験受験資格のための評点表および証明資料

出願時には次のことにご注意下さい。

・ 会員歴：本年度は原則2009年以前に入会された方

(途中退会歴の取り扱いはい問合せ先まで)

・ 研究歴

詳細は「日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定」をご覧ください。出願書類は記録の残るもの(書留、宅配等)でお送り下さい。出願書類フォームは、学会ホームページおよび次号 Vol. 37, No. 3(6月号)に掲載しております。

5. 受験料

30,000円(下記の郵便振替口座にお振込の上、払込票のコピーを出願書類に同封下さい)

郵便振替口座番号：00150-9-426831

加入者名：日本毒性学会

(通信欄に会員番号を明記下さい)

6. トキシコロジスト認定試験の参考図書に関する留意点

日本毒性学会教育委員会編集の「トキシコロジー」(朝倉書店)は2009年に改訂されておりますので、ご留意下さい。第1版と第2版については正誤表が学会ホームページに掲載されておりますので、確認をお願いします。

7. 出願書類送付先・問合せ先

日本毒性学会 教育委員会

認定試験小委員会

〒160-0016 東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館
(財)国際医学情報センター内

TEL：03-5361-7075 / FAX：03-5361-7091

e-mail：educ-group@umin.ac.jp

第 39 回日本毒性学会学術年会のご案内 (第 5 報)

※第 6 回アジア毒性学会学術集会 (ASIATOX-VI) と同時期開催いたします。

1. 日 時

2012 年 7 月 17 日 (火) ~ 19 日 (木)

2. 会 場

仙台国際センター

〒 980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地

TEL: 022-265-2211 (代表)

URL: <http://www.sira.or.jp/icenter/>

3. 年会長

永沼 章 (東北大学大学院薬学研究所)

TEL: 022-795-6870

4. 企画委員 (敬称略)

大野 泰雄 (国立医薬品食品衛生研究所)

鍛冶 利幸 (東京理科大学)

菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)

熊谷 嘉人 (筑波大学)

佐藤 雅彦 (愛知学院大学)

下村 和裕 (第一三共株式会社)

菅井象一郎 (日本たばこ産業株式会社)

杉本 哲朗 (中外製薬株式会社)

津田 修治 (岩手大学名誉教授)

遠山 千春 (東京大学)

中村 和市 (塩野義製薬株式会社)

西田 信之 (武田薬品工業株式会社)

野村 護 (株式会社イナリサーチ)

姫野誠一郎 (徳島文理大学)

広瀬 明彦 (国立医薬品食品衛生研究所)

堀井 郁夫 (ファイザー株式会社)

眞鍋 淳 (第一三共株式会社)

山添 康 (東北大学)

横井 毅 (金沢大学)

吉田 武美 (昭和大学名誉教授)

5. 特別企画 (予定, 敬称略)

1) 市民公開セミナー

テーマ: 「食品中化学物質と健康」

日時: 2012 年 7 月 16 日 (月・祝)

午前 10:00 ~ 11:30

場所: 仙台市シルバーセンター

(仙台駅より徒歩 5 分)

2) 年会長招待講演

「環境毒性学から疾患研究への展開・・・水腎症発症の分子毒性メカニズムの解明」

遠山 千春 (東京大学大学院医学系研究科)

3) 特別講演

(1) "Toxicity Testing in the 21st Century
- A Vision and a Strategy"

Daniel Acosta, Jr.

(University of Cincinnati, USA)

(2) "Cellular Adaptive Response to Environmental
Toxicants and Other Noxious Insults"

Young-Joon Surh

(Seoul National University, Korea)

(3) "Molecular Basis of Keap1-Nrf2 System
Function"

Masayuki Yamamoto

(Tohoku University, Japan)

(4) "Fifty Years after the Discovery of Cytochrome
P450: What Do We Really Know about the
Positive and Negative Roles in Toxicology
& Health Issues?"

F. Peter Guengerich

(Vanderbilt University, USA)

4) 教育講演

(1) 「毒作用発現バイオマーカーとしてのMicroRNA」

横井 毅 (金沢大学)

- (2) 「市販後における医薬品の安全性評価の問題点とその原因 -非臨床安全性評価の意義-」

吉田 パスカル

(グラクソ・スミスクライン株式会社)

- (3) "Current Understanding of Perfluoroalkyl Acid Toxicology"

Christopher Si-Lung Lau

(U.S. Environmental Protection Agency, USA)

- (4) "A Systemic Review of the Prothrombotic Risk of Xenobiotics: from Cell to System"

Jin-Ho Chung

(Seoul National University, Korea)

- (5) "Biomarker Qualification: A Journey from Inception to Application of Renal Safety Biomarkers"

Eslie Dennis

(Predictive Safety Testing Consortium (PSTC), Critical Path Institute, USA)

5) シンポジウム (順不同)

- ・ エピジェネティクスから捉えた毒作用発現
- ・ 毒性オミクス
- ・ 生態毒性試験生物の基礎研究
- ・ 再生医療とその安全性評価
- ・ 子どもの毒性学
- ・ 神経行動毒性試験の標準化と新たな指標開発の展開
- ・ 日本における農薬等の急性曝露評価の必要性
- ・ 慢性毒性試験結果からの発がん性予測
- ・ 薬物性肝障害 -最新知見を基に
- ・ 重金属の毒性とその防御の分子メカニズム
- ・ 臨床副作用と非臨床毒性の相関 -種差を乗り越えて-
- ・ In vitro 毒性試験法の探索毒性試験への展開
- ・ 環境化学物質による毒性メカニズムの分子基盤
- ・ 創薬スクリーニングにおける毒性評価
- ・ 放射線被曝と毒性学における課題・・福島原発問題を契機として
- ・ ファーマコビジランス (PV)

6) ミニシンポジウム

- ・ 就職希望の学生を対象とした安全性研究所等の紹介
- ・ 若手研究者セミナー

- 7) サテライトシンポジウム (7月20日開催予定)

- ・ 化学物質の安全性を in silico で評価する

6. 一般演題

- 1) 主発表者 (プレゼンター) は本学会会員に限ります (1名1演題)。現在非会員の方で発表を希望される方は、学会 HP 掲載の入会申込書にて、日本毒性学会事務局へ入会の手続きを行って下さい。

- 2) 一般演題は口演またはポスター発表とします。口演の発表時間は7分、討論3分の計10分を予定しています。発表方法は液晶プロジェクターのみです。ポスター発表は、7月17日(火)・18日(水)・19日(木)の3日間、毎日貼替えでポスター展示を行い、途中で質疑応答時間を設けます。詳細については年会 HP にて追ってご案内いたします。

- 3) 優秀研究発表賞

2012年4月1日の時点で40歳以下の方を対象とします。応募者はポスター発表に加え、別会場で5分の口頭発表と3分の質疑応答を行っていただく予定です。発表スライドは、年会当日受け付けいたします。受賞者の発表は学術年会最終日に行います。受賞者には、賞状と副賞を授与します。

7. 参加登録および参加費

事前参加申込締切日:

2012年5月22日(火)午後1:00(予定)

- 1) 参加費

- ◆参加登録区分には、次の2通りがございます。
 - ・ 第39回日本毒性学会学術年会のみ参加する場合
 - ・ 第6回アジア毒性学会学術集会 (ASIATOX-VI) にも参加する場合

それぞれの参加費に含まれる詳細は下記に記載しております。同時期開催の第6回アジア毒性学会学術集会 ASIATOX-VI にも参加する方は、懇親会も含んだお得な料金になっておりますので、是非お申込み下さい。

1-1) 第39回日本毒性学会学術年会のみ参加する場合

(年会参加証, プログラム・講演要旨集を含む)

学会員	10,000円 (当日 12,000円)
非学会員	12,000円 (当日 14,000円)
学生会員	3,000円 (当日 4,000円)
懇親会費 (一般)	8,000円 (当日 10,000円)
(学生)	4,000円 (当日 5,000円)

1-2) 第6回アジア毒性学会学術集会

(ASIATOX-VI)にも参加する場合

(年会・ASIATOX-VI参加証, 年会・ASIATOX-VIプログラム・講演要旨集, 懇親会費, ASIATOX-VI ウェルカムレセプションを含む)

学会員	25,000円 (当日 32,000円)
非学会員	27,000円 (当日 34,000円)
学生会員	10,000円 (当日 13,000円)

2) 振込み方法

- ・郵便局
- ・コンビニエンスストア

参加登録が完了すると, 10日以内に参加費支払用の専用振込用紙がご指定の住所に郵送されます。振込用紙を受け取りましたら, 振込用紙に記載されている日時までに郵便局または該当コンビニエンスストアにてお支払い下さい。

(本年会では本毒性学ニュースに同封される振込用紙による振込依頼は行いませんので, ご注意ください。)

8. 懇親会

7月18日(水)にASIATOX-VIとの合同懇親会を開催いたしますので, 是非ご参加下さい。

会 場:メトロポリタンホテル仙台(仙台駅直結)
時 間:午後6時より(予定)

9. 年会事務局

〒980-8578 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
東北大学大学院薬学研究科生体防御薬学分野
黄 基旭(ふあん ぎょうく)
TEL&FAX: 022-795-6872
E-mail: secretariat@jsot2012.com

10. 年会 HP

<http://www.jsot2012.com>

◆同時開催のご案内◆

第6回アジア毒性学会学術集会 (ASIATOX-VI)

日時:2012年7月17日(火)~20日(金)

会場:仙台国際センター

会長:永沼 章(東北大学大学院薬学研究科)

学術集会 HP: <http://www.asiattox-vi.com>

※学会参加費などの特典がありますので, 是非ご参加ください!

第 6 回アジア毒性学会学術集会 (ASIATOX-VI) のご案内 (第 3 報)

※第 39 回日本毒性学会学術年会と同時期開催いたします。

1. 日 時

2012 年 7 月 17 日 (火) ~ 20 日 (金)

2. 会 場

仙台国際センター
〒 980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地
TEL : 022-265-2211 (代表)
URL : <http://www.sira.or.jp/icenter/>

3. 年会長

永沼 章 (東北大学大学院薬学研究科)
TEL : 022-795-6870

4. テーマ

『環境物質をはじめとする様々な化学物質, 医薬品,
金属や天然物のリスクと恩恵』

5. 会議使用言語

英語

6. 組織委員 (敬称略)

会 長 : 永沼 章 (東北大学)
事務局長 : 熊谷 嘉人 (筑波大学)
財務委員 : 中村 和市 (塩野義製薬株式会社)
西田 信之 (武田薬品工業株式会社)
総務委員 : 黄 基旭 (東北大学)
新開 泰弘 (筑波大学)
高橋 勉 (東北大学)
広瀬 玲子 (筑波大学)

国際委員 :

【日本】 Tetsuo Satoh (Chiba University)
【韓国】 Byung-Mu Lee (Sungkyunkwan University)
【中国】 Jun-Shi Chen
(Chinese Center for Disease Control and Prevention)
【台湾】 Min-Liang Kuo
(National Taiwan University)
Jou-Fang Deng
(Taipei Veterans General Hospital)
【タイ】 Songsak Srianjata (Mahidol University)

国際プログラム委員 :

【日本】 Ikuo Horii (Pfizer Inc.)
【韓国】 Young-Jin Chun (Chung-Ang University)
【中国】 Shuang-Qing Peng
(Institute of Disease Control and Prevention AMMS)
【台湾】 Pinpin Lin
(National Health Research Institutes)
【タイ】 Malyn Chulasiri (Mahidol University)

国内委員 : 堀井 郁夫 (ファイザー株式会社)

菅野 純 (国立医薬品食品衛生研究所)
鍛冶 利幸 (東京理科大学)
三森 国敏 (東京農工大学)
務台 衛 (田辺三菱製薬株式会社)
中村 和市 (塩野義製薬株式会社)
西田 信之 (武田薬品工業株式会社)
野村 護 (株式会社イナリサーチ)
落合 敏秋 (日本エスエルシー株式会社)
大野 泰雄 (国立医薬品食品衛生研究所)
下村 和裕 (第一三共株式会社)
菅井象一郎 (日本たばこ産業株式会社)
杉本 哲朗 (中外製薬株式会社)
天間 恭介 (北里大学)
遠山 千春 (東京大学)
津田 修治 (岩手大学名誉教授)
山田 久陽 (大正製薬株式会社)
山添 康 (東北大学)
吉田 武美 (昭和大学名誉教授)

7. プログラム (予定)

1) 特別講演, 教育講演 (第 39 回日本毒性学会学術
年会)
第 39 回日本毒性学会学術年会との合同プロ
グラムとなります。詳細は年会プログラムをご
参照下さい。

2) シンポジウム

- ・ Advances in clinical toxicology
- ・ Drug abuse
- ・ Molecular toxicology: update
- ・ Mutagenesis and carcinogenesis of drugs, metals and industrial chemicals
- ・ Nanotoxicology
- ・ Natural products as chemopreventive agents
- ・ Oxidative stress: risk and benefit
- ・ Radiotoxicology: risk assessment
- ・ Regulatory Sciences in Asia: Current and future aspect of regulatory sciences in each country
- ・ Toxicological aspects in consumer products

3) 一般演題 (ポスター)

8. 一般演題

- 1) 一般演題はポスターのみです。ポスター討論は、7月20日(金)午前を予定しています。詳細については学術集会HPにて追ってご案内いたします。
- 2) Young Investigator's Award (若手優秀研究賞)
2012年4月1日の時点で40歳以下の方を対象とします。受賞者の発表は懇親会にて行います。受賞者(最大6名)には賞状と賞金5万円を授与します。
- 3) Poster Award (ポスター賞)
2012年4月1日の時点で40歳以下の方を対象とします。受賞者には賞状を授与します。

9. 参加登録および参加費

事前参加申込締切日:2012年5月22日(火)午後1:00(予定)

1) 参加費

一般	25,000円 (当日 32,000円)
学生	10,000円 (当日 13,000円)
同伴者	10,000円 (当日 13,000円)

(第39回日本毒性学会学術年会・ASIATOX-VI参加証, 第39回日本毒性学会学術年会・ASIATOX-VIプログラム・講演要旨集, 懇親会費, ASIATOX-VI ウェルカムレセプションを含む)

2) 振込み方法

クレジットカード

10. 懇親会

7月18日(水)に懇親会を開催いたしますので、是非ご参加下さい。なお、懇親会は第39回日本毒性学会学術年会と合同で開催いたします。

会場: メトロポリタンホテル仙台 (仙台駅直結)

時間: 午後6時より(予定)

参加費: 上記参加費に含まれます。

11. 学術集会事務局

〒305-8575 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学医学医療系 環境医学分野

熊谷 嘉人, 新開 泰弘, 広瀬 玲子

TEL: 029-853-3133 FAX: 029-853-3259

E-mail: secretariat@asiatox-vi.com

12. 学術集会HP

<http://www.asiatox-vi.com>

その他のお知らせ

シンポジウム
**モレキュラー・キラリティー アジア
 2012**
Symposium
Molecular Chirality ASIA 2012

- Chiral Science and Technology: From ASIA to the World -

趣旨 シンポジウム「モレキュラー・キラリティー」は、結晶化・クロマトグラフィーによる光学分割、不斉合成、キラル化合物の薬理・毒性・体内動態、キラル分析、キラル材料、不斉の起源、キラル化合物の工業生産など、「モレキュラー・キラリティー」をキーワードに分野横断的な研究発表・討論の場として、1992年よりほぼ毎年開催されて参りました。20周年を迎える今回、中心となる参加者の対象地域をアジアに広げ、シンポジウム「モレキュラー・キラリティー アジア 2012」として開催致します。

- 主催** MCRO (Molecular Chirality Research Organization)
共催 高分子学会, 日本化学会, 日本薬学会, 日本分析化学会, 日本薬物動態学会, 日本毒性学会, 日本農芸化学会
協賛 有機合成化学協会
会期 5月17日(木), 18日(金)
会場 九州大学医学部百年講堂
 (〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1番1号)
交通 地下鉄箱崎線 馬出九大病院前 下車 徒歩5分

プログラム

招待講演 Xinhua Wan (Peking Univ., China), Shunai Che (Shanghai Jiaotong Univ., China), Myung Ho Hyun (Pusan National Univ., Korea), Kyu-Sung Jeong (Yonsei Univ., Korea), Hiroshi Honma (Kitasato Univ., Japan), Masahiro Terada (Tohoku Univ., Japan), Ivan Huc (Institut Européen de Chimie et Biologie, France), Gerard Roelfes (Univ. of Groningen, the Netherlands) 一般口頭発表 (15件程度), ポスター発表 詳細はHPをご覧ください。

- 発表形式** 口頭およびポスター (発表言語: 英語, 日本語)
発表申込方法 詳細はHPをご覧ください。
発表申込締切 3月15日(木)
要旨提出締切 4月2日(月)
参加費 一般7,000円(当日9,000円), 学生4,000円(当日5,000円), 申込はHPからお願いします。
懇親会 一般7,000円, 学生4,000円, HPから事前に申込をお願いします。

事前参加登録, 参加費等払込締切 4月5日(木)

オーガナイザー 徳島文理大学香川薬学部 東屋 功
 九州大学大学院薬学研究院 浜瀬 健司

問合せ

〒769-2193 さぬき市志度1314-1 徳島文理大学香川薬学部
 Molecular Chirality ASIA 2012 実行委員会事務局
 Tel: 087-894-5111 Fax: 087-894-0181
 E-mail: mc2012@chiralcrystal.net
 URL: http://www.chiralcrystal.net/mc2012/

第19回 HAB 研究機構学術年会
創薬開発の迅速化を目指して
 — 探索的 IND 試験とトランスレーショナル研究の進展 —

学術年会長 泉 高司 (第一三共株式会社)
 日時 2012年5月18日(金)・19日(土)
 会場 昭和大学 上條講堂

プログラム概要

特別講演

Scientific perspective on transport-related drug interactions
 Shiew-Mei Huang, PhD (FDA, USA)

招待講演 I

1 生細胞ビデオ質量分析・分子追跡法による創薬高速化
 — ヒト1生細胞ダイレクト薬物代謝・局在追跡から未来へ —
 升島 努先生 (広島大学大学院)

招待講演 II

創薬開発の迅速化を目指して — 国立がん研究センターに
 おけるファーストインマン試験の体制整備 —
 藤原 康弘先生 (国立がん研究センター中央病院)

シンポジウム I

「トランスレーショナル研究の進展」

In vitro/in vivo アプローチによる薬物肝取りこみトランス
 スポーターの評価およびトランスレーショナルリサーチ
 への展開

今岡 知己先生 (第一三共株式会社)
 ヒト組織を用いた腎・消化管における薬物輸送ならびに
 相互作用の予測

楠原 洋之先生 (東北大学大学院)
 タンパク質の高感度同時絶対定量法を用いた創薬科学の
 新展開

寺崎 哲也先生 (東北大学大学院)
 がん薬物療法におけるバイオマーカーに関しての最近の知見
 西尾 和人先生 (近畿大学医学部)

シンポジウムⅡ

「創薬への応用を目指した各種細胞テクノロジーの進展」

創薬のための新規細胞アッセイ技術

金森 敏幸先生（産業技術総合研究所）

ヒト消化管手術検体を利用した薬物吸収性評価

三宅 正見先生（大塚製薬株式会社）

サンドイッチ培養肝細胞を用いた胆汁排泄の in vivo 予測の検証

中俣屋 匡紀先生（武田薬品工業株式会社）

HepaRG® 細胞及びヒト化マウス（Tg マウス /PXB ® マウス）を用いた酵素誘導評価

長谷川 真緒先生（協和発酵キリン株式会社）

シンポジウムⅢ

「早期探索的臨床試験におけるヒト組織を用いた in vitro 試験の重要性」

早期探索的臨床試験の結果解釈におけるヒト組織を用いた in vitro 試験の重要性

杉山 雄一先生（理化学研究所）

MD 試験のアベイラビリティ（F）測定値から治療投与量でのFの予測における in vitro 試験の重要性

山下 伸二先生（摂南大学薬学部）

MD 試験と in vitro 試験の活用による薬物間相互作用の予測

前田 和哉先生（東京大学大学院）

肝臓への取り込み、胆汁排泄を PET イメージングで捉える：In vitro 試験との併用の重要性

木村 寛之先生（京都大学放射性同位元素総合センター）

早期探索臨床試験への企業からの期待

中井 康博先生（大正製薬株式会社）

第 19 回日本免疫毒性学会学術大会
(JSIT2012)

日本免疫毒性学会の第 19 回学術大会を下記の要領で開催いたしますので、ご案内申し上げます。

期 日 平成 24 年（2012 年）9 月 15 日（土）～ 16 日（日）

会 場 東京慈恵会医科大学 大学 1 号館講堂

東京都港区西新橋 3-25-8

（交通：JR 新橋駅徒歩 12 分、地下鉄都営三田線
成門駅徒歩 3 分）

テーマ 免疫毒性疾患の新しい様相

内 容

特別講演：

「日本免疫毒性学会の発足の趣旨と 20 周年に向けての提言（仮題）」

大沢 基保（食品薬品安全センター 秦野研究所）

教育講演 1：

「免疫毒性の観点からみた生活習慣病の病態（仮題）」

宮崎 徹（東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学
センター 分子病態医科学）

教育講演 2：

「免疫毒性の観点からみた疲労の病態（仮題）」

近藤 一博（東京慈恵会医科大学ウイルス学講座）

シンポジウム：

「免疫毒性学研究的の進歩（仮題）」

坂部 貢（東海大医学部基礎医学系生体構造機能学領域）

石渡 賢治（東京慈恵会医科大学熱帯医学講座）

西村 泰光（川崎医科大学衛生学教室）

ワークショップ、一般演題（口演・ポスター）を予定

*年会において優秀な一般演題を発表した会員に対し、「年会賞」並びに「学生・若手優秀発表賞（30 歳以下）」を贈呈します。

一般演題発表形式 PC プロジェクターによる口頭発表と
ポスター発表

演題募集期間 平成 24 年 5 月 8 日（火）～ 6 月 26 日（火）（予定）

年会長 柳澤 裕之 東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座

事務局

宮越 雄一、小岩井 利一

東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座内

第 19 回日本免疫毒性学会事務局

TEL：03-3433-1111（内線 2266）

FAX：03-5472-7526

e-mail：jsit19@jikei.ac.jp

学術大会 HP：http://jsit19.umin.ne.jp

国際薬理遺伝学研究連合 GAP シンポジウム
「ゲノム医療の新時代 2012」の開催について

http://www.src.riken.jp/event/120302/

ヒトゲノム配列が解読されて 10 年が経過し、病気や薬物副作用に関わる遺伝情報の解明は急速に進んでいます。

理化学研究所ゲノム医科学研究センターは 2008 年より米国国立衛生研究所（NIH）薬理遺伝学研究ネットワーク（PGRN）と国際薬理遺伝学研究連合（Global Alliance for Pharmacogenomics：GAP）を創設し、共同研究を実施して参りました。

この度、薬の効果や副作用に対するひとりひとりの違いを研究する薬理遺伝学研究について、日米の専門家が一堂に会し、最新の研究成果や今後の展望を報告します。

日 時 2012 年 3 月 2 日（金）13：00～17：00

会場 ガーデンシティ品川 ボールルームイースト
定員 500名(事前申込制)
参加費 無料
主催 理化学研究所ゲノム医科学研究センター,
 米国国立衛生研究所(NIH)薬理遺伝学研究ネット
 ワーク(PGRN)
後援 文部科学省

プログラム

- 13:10 ~ 13:20
Introduction of NIH ~ PGRN
Rochelle Long [NIH]
- 13:20 ~ 13:50
Overview of the Global Alliance for Pharmacogenomics:
The PGRN ~ CGM Alliance
Kathy Giacomini [UCSF]
- 13:50 ~ 14:20
ゲノム医科学研究センターと薬理遺伝学研究ネット
ワークの連携研究の最新成果
久保 充明 [理研 ゲノム医科学研究センター]
- 14:20 ~ 14:50
Pharmacogenetics of Breast Cancer
Dick Weinshilboum [Mayo Clinic]
- 15:20 ~ 15:50
Pharmacogenetics of Cardiovascular Disease
Dan Roden [Vanderbilt University]
- 15:50 ~ 16:20
Building a Genomic Prescribing System
Mark Ratain [University of Chicago]
- 16:20 ~ 16:50
オーダーメイド医療のためのバイオバンク・プロジェクト
中村 祐輔 [東京大学医科学研究所/理研]

*当日は同時通訳が行われます。

申込方法

Web でのお申込:
 Web 申込みフォームよりお申込下さい。
<http://www.src.riken.jp/event/120302/>

FAX でのお申込:

記入事項

- 1. 氏名 2. フリガナ 3. 郵便番号
- 4. 住所 5. 年齢 6. 性別
- 7. 職業 8. FAX 番号

以上の項目をご記入の上、FAX 番号 045-503-9113 宛にお送りください。

*お申込は2012年2月29日(水)必着

第22回 生殖・発生毒性学東京セミナー

日時 2012年3月2日(金)14:00~17:00
会場 「独立行政法人 国立オリンピック記念青少年総合
 センター」センター棟3階, 311室
 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
 TEL 03-3467-7201

<http://nyc.niye.go.jp>

小田急線 参宮橋駅7分

地下鉄千代田線 代々木公園

(代々木公園西門前出口)10分

懇親会 カルチャー棟2階「レストランとき」

会費 セミナー 1,500円(当日)学生無料

懇親会 3,500円(当日)

・セミナー・懇親会ともに、ノーネクタイのカジュアルな服装でご参加ください。

・先天異常学会の名誉・功労会員は会費無料とします。

プログラム

13:30 ~ 14:00 受け付け

14:00 ~ 14:10 開会のことば

進行 北條 仁 ((財)残留農業研究所)

1. 14:10 ~ 15:00

「生殖・発生毒性試験に出現する突然変異体と原因遺伝子の探索」

佐藤 旭 先生 ((財)残留農業研究所)

~ 15:15 休憩

2. 15:15 ~ 16:50

「生殖発生毒性試験に関する申請資料に対するの当局からの指摘事例について」

① 医薬品(厚生省・審査センター時代)および農業

川島邦夫 先生 (生殖毒性評価コンサルタント)

② 生殖発生毒性試験に対するコメントについて

江馬 真 先生

((独)産業技術総合研究所 安全科学研究部門)

進行 和泉 宏幸 (三菱化学メディエンス株)

~ 17:00 閉会のことば

17:10 ~ 18:40 懇親会

事務局から

職場内等で回覧、掲示をお願いします。参加希望者は、2月27日(月)までに事務局にお知らせください(セミナー、懇親会それぞれ明記して下さい)。その際、参加者全員の氏名・所属・連絡先(住所、TEL、FAX、e-mail)をご記入ください。申し込みはe-mail 又は FAX をお願いします。なお、当日受付も行いますが、資料を配付できない場合がありますのでご了承願います。

事務局 日本バイオアッセイ研究センター
試験管理部 動物管理室
奥田 裕計
〒 257-0015 神奈川県秦野市平沢 2445
TEL : 0463-82-3911 / FAX : 0463-82-3860
e-mail : h-okuda@jisha.or.jp
<http://www.jisha.or.jp>

J. Toxicol. Sci. 投稿規定

The Journal of Toxicological Sciences (略称: J. Toxicol. Sci.) は医薬品, 食品添加物, 食品汚染物質, 環境汚染物質をはじめ様々な物質の毒性とその発現機構, 生体応答, 安全性評価, 分析法など毒性学全般にわたる研究成果を掲載する学術雑誌である。本誌に投稿される論文は英語で執筆され, その内容が未発表及び未投稿で独創的な知見を含み, さらに, 内容を十分に理解出来るネイティブスピーカーによって英文チェックを受けたものに限る。なお, 投稿者は日本毒性学会の会員である必要はない。

1. 論文の種類

- (1) Original Article: 独創的研究によって得られた新知見を含む論文。文字数の制限はない。
- (2) Letter: 原則として刷り上がり3頁以内。公表する価値は十分あるものの Original Article としてはデータの的に不十分な研究成果, 十分な考察や意義付けはできないが興味深い現象, ネガティブデータだが学術的重要性が高いと思われる知見などを掲載する。
- (3) Toxicogenomics/proteomics Report: 刷り上がり3頁以内。毒性や生体応答に関わる遺伝子および蛋白質に関する独創的な知見を掲載する。対象となる物質によって発現量が変動する遺伝子群 (または蛋白質群) に関するデータ (DNA アレイ分析の結果など) や毒性発現に影響を与える遺伝子 (または蛋白質) の同定などが該当する。DNA アレイ分析結果などは1つの物質について1論文, 毒性発現に関わる遺伝子の同定は1つの遺伝子について1論文とすることができる。また, 毒性に関わる遺伝子の新たな多型の発見や, 既存の遺伝子多型と薬効等との関連性を検討した結果 (ネガティブデータでも可) なども掲載対象とする。本論文種は情報提供を目的としたものなので, 考察や意義付けが十分にされていなくても良い。
- (4) Review 及び Minireview: 編集委員会が執筆を依頼する。興味深い最新の知見を全般的に紹介する総説を Review とし, 主として著者らの最近の研究を紹介する総説を Minireview とする。Review は頁数に制限を設けませんが, Minireview は刷り上がり3頁以内とする。
- (5) Special Issue: 一冊買い上げの形で研究成果等を本誌の Special Issue として発行することができる (原則として50ページ以上)。詳細については電子メールで編集部にお問い合わせのこと。

2. 原稿の構成

A4判に上下左右に2cmの余白を取り, 11ポイントの活字でシングルスペースで記述する。刷り上がりページ数が定められている論文種の場合は, 刷り上がり1頁の文字数がスペースを含めて約4,700字となることを考慮して原稿を作成する。表題頁を1頁として頁数の通し番号を下部中央に記す。

- (1) 第1頁 (表題ページ) に表題, 著者名, 所属機関名とその所在地, 論文種別, running title (スペースを含めて70文

字以内), カテゴリー (下記3参照) を記す。次いで日本語で, 連絡著者の氏名, 所属機関及び住所, 電話番号, E-mail アドレス (必須) を記載し, さらに, 英文チェックを受けたネイティブスピーカーの氏名 (または会社名) 及び住所を記入する。

- (2) 第2頁に250語以下のアブストラクト及び3~6語のキーワードを記す。アブストラクトは改行しない。
- (3) 第3頁以後に Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Acknowledgments, References の順番で本文を記述する。Results と Discussion をまとめて Results and Discussion として記述してもよい。
- (4) 略語: 初出時に一旦スベルアウトし, その直後に略語を () 内に示し, 以下その略語を用いる。
- (5) 単位: 次のように使用する。µm, mm, cm, m, Å, µg, mg, g, kg, µl, ml, l, mmol, mol, µM, mM, M, ppm, mol/l, mg/ml, %, sec, min, hr, S.D., S.E., s.c., i.c., i.m., i.v., i.p., p.o., Bq, Ci, Sv, Gy, cpm, °C.
- (6) 使用した試薬及び機器: 会社名, 都市 (州), 国名を記載する。
- (7) 表: 本文と同じワープロソフトを用いて A4判の大きさで作成し, アラビア数字で一連の通し番号を付ける (例, Table 1)。タイトルは表の上部に, 注釈は表の下部にそれぞれ直接記入する。
- (8) 図: 著者の作製した図をそのまま版下に用いる。図の原稿は1つずつ A4判1ページに収まるように作成し, アラビア数字で一連の通し番号をつける (例, Fig. 1)。図のタイトルおよび注釈は別紙にまとめて Legends として記載する。論文が採用された際には, 全ての図の電子ファイルを提出する必要がある。
- (9) 文献の引用: 本文中に文献を引用する際は, 著者名および年号を () 内に記す [例, (Smith, 1999) または (Jones and Cohen, 2003)]。著者が3名以上の場合には筆頭著者のみを表示する [例, (Smith et al., 2004)]。引用した論文はアルファベット順に並べて論文末尾に References として一覧表示する。記載順序は, 雑誌の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 雑誌名の略称, 巻, 頁とし, 単行本の場合は著者氏名, 年号, 論文名, 書名, 編著者名, 頁, 発行所, 所在都市名とする。雑誌名の略称は, その雑誌が定めているものがある場合はそれを用い, それ以外は Chemical Abstract に準ずる。

(例)

Kennedy, M.L., Smith, J.K. and Jones, W.T. (2005) : The pharmacokinetics of methylmercury in new born rats. *J. Toxicol. Sci.*, **30**, 126-135.

Steel, J.M. and Whiteny, M.C. (2003) : The effect of diethylstilbestrol on reproductive system in rat offspring. In *Toxicology of Diethylstilbestrol* (Walton, W.H., ed.), pp.551-564, Thomson Press, New York.

(10) Supplemental Data：一部のデータ（Methodの詳細、追加データ、DNAマイクロアレイ解析の詳細結果など）をSupplemental Dataとして投稿論文に添付することができる。Supplemental Dataはオンライン版にのみ掲載される。

3. カテゴリー

第1頁（表題ページ）に下記の中から該当するカテゴリー（5つ以内）を選んで、関連性の高いものから順番に記号を記載すること。

A1 医薬品 A2 農薬 A3 金属 A4 工業用化学物質 A5 トキシン A6 食品添加物 A7 食品汚染物質 A8 環境汚染物質 A9 発がん性物質 A10 内分泌攪乱物質 A11 ナノマテリアル
 B1 脳神経系 B2 肝臓 B3 腎臓 B4 皮膚 B5 感覚器 B6 消化器 B7 呼吸器 B8 循環器 B9 生殖器 B10 胎児
 C1 一般毒性 C2 生殖毒性 C3 遺伝毒性 C4 発がん C5 行動毒性 C6 免疫毒性 C7 薬物中毒 C8 薬物依存性 C9 細胞毒性 C10 酸化ストレス C11 炎症
 D1 蓄積・排泄 D2 キネティクス D3 薬物代謝 D4 毒性発現機構 D5 生体（細胞）応答 D6 毒性病理学 D7 毒性生化学 D8 分子毒性学 D9 毒性関連遺伝子 D10 安全性評価 D11 毒性試験法 D12 分析法 D13 オミクス D14 統計解析法

4. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は日本毒性学会に帰属するものとする。転載時には、その都度本編集部の許可を必要とする。

5. ヒトや動物を対象とした論文

人体ならびにヒト組織を対象とした論文は「ヘルシンキ宣言」（1964年発行、2002年改訂：<http://www.wma.net/e/policy/b3.htm>）の倫理基準に、またヒト遺伝子に関する論文は「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」（http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/seimei/genomeshishin/）に従い、かつ、何れの場合も所属機関の倫理委員会の承認を得て実施されたものに限って投稿を受け付ける。また、動物を対象とした

論文は文部科学省など公的機関の策定した動物実験ガイドラインに従って実施されたものに限る。いずれも当該論文がこれらに従って実施されたことを本文中に明記する必要がある。

6. 投稿原稿の送付

原稿はオンライン投稿システム（<https://www.e-kenkyu.com/jtoxicol-sci/>）から投稿すること。その他の方法による投稿は受け付けない。投稿原稿はMicrosoft WordファイルまたはPDFファイルに限る。表および図は本文の末尾に貼り付け、一つのファイルとして投稿すること。本文と図表が別ファイルになっている論文の投稿は受け付けない。投稿時に原稿と別にカバーレター（日本語可）を添付することができる。

7. その他

- (1) 採用が決定した場合には、Microsoft Wordで作成した最終原稿（本文および表）ファイルと図のファイルを提出する必要がある。
- (2) 著者校正を1回行うが、誤植のみの訂正とし、追加や書き改めは認めない。

8. Executive Editors

若干名のExecutive Editorをおく。Executive Editorの選考は編集委員会に設けられたExecutive Editor小委員会が行う。Executive Editorが責任著者になっている論文またはExecutive Editorが推薦する論文は編集委員会の審査を受けることなく採用する。Executive Editorはこれらの論文を編集部に送付する前に、自身と所属の異なる2名の専門家に査読を依頼しなければならない。掲載論文にはその論文を投稿または推薦したExecutive Editorの氏名が記載される。

9. 掲載料

掲載料は以下の表を参照のこと（消費税別）。別刷は別途申し受ける（有料：実費）。請求書は発行後に責任著者宛に送付する。

	掲載料（円／頁）	カラー写真 ^c （円／頁）
Original Article	6,000	40,000
Letter	12,000 ^a	40,000
Report ^b	16,000	40,000
Special Issue	20,000	40,000
招待総説	無料	20,000

^a：4頁目からは16,000円／頁。 ^b：Toxicogenomics/proteomics Report。 ^c：図等も含む。

入 会 案 内

1. 「日本毒性学会会則」を熟読の上、本会ホームページの「入会案内」(<http://www.jsot.gr.jp/about/admission.html>)より入会申請フォームでお申し込み下さい。
入会にあたり、本学会評議員1名の推薦が必要となります。学生会員として入会を希望される方は、評議員の推薦に加え、所定欄に所属研究室指導教員1名の推薦が必要です。評議員については「評議員リスト」(https://toxicol.org/users/councilor_list)をご覧ください。評議員のe-mailアドレスは評議員の先生に直接お尋ね下さい。
2. 入会受付後、事務局より年会費の郵便振替用紙をご送付いたします。
3. 年会費の納入が確認された時点で入会が完了し、会員として登録されます。
4. 本会の年度は1月1日から12月31日です。
5. 機関誌「The Journal of Toxicological Sciences」はご指定の住所宛にご送付いたします。尚、年度の途中から入会された場合、希望者には入会年の機関紙 No.1 からご送付いたしますので、入会申請フォームのバックナンバー欄に希望の有無のチェックを入れて下さい。
6. 年会費および会員の種別は次の通りです。
一般会員 7,000円
学生会員 3,000円
*本年度入会希望の方は、12月20日までに年会費のお振込みをお願いします。それ以降にお振込みいただいた場合は、次年度入会となりますのでご了承下さい。

変 更 手 続 き

ご登録内容の変更は、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://toxicol.org/>)へログインし、「会員情報確認・変更メニュー」の「登録情報確認・変更ページへ」から手続きを行って下さい。

退会手続きは、本会ホームページの「会員専用」ページ (<https://toxicol.org/>)へログインし、「会員情報確認・変更メニュー」の「退会申請ページへ」より手続きを行って下さい。

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定制度規定

平成 9 年 7 月 24 日制定
平成 15 年 7 月 19 日改正
平成 19 年 1 月 16 日改正
平成 21 年 7 月 5 日改正
平成 23 年 1 月 14 日改正
平成 24 年 1 月 1 日改正

1. 目的

日本毒性学会（JSOT）は化学物質の毒性試験に関する基準（GLP）の施行に伴う安全性試験の信頼性確保の重要性に鑑みて、わが国の安全性試験の信頼性向上と毒性学の進歩に寄与するため、JSOT 認定トキシコロジストの認定制度を設けて、質の高い専門家を認定する。

2. 認定試験小委員会

認定試験を実施するため、JSOT 教育委員会の下に認定試験小委員会（以下試験委員会という）を設置する。試験委員会に関する細則は別に定める。

3. 認定試験

- JSOT 認定トキシコロジストとして認定を受けようとする者は、JSOT が行う書類審査ならびに認定試験に合格しなければならない。
- 書類審査および認定試験は試験委員会が行い、認定は理事会が行う。
- 書類審査の基準は次の通りとする。
 - 出願時に3年以上継続してJSOTの会員であること。
 - 出願時に6年制大学卒業後5年以上、4年制大学卒業後7年以上、短期大学卒業後10年以上、高等学校卒業後12年以上、およびそれ以外の者ではこれに準ずる年数の毒性学領域における実績を有する者であること。毒性学領域における実績期間には、毒性学関連の職歴および大学院等における毒性学関連の研究期間を含めるものとする。ただし、修学期間、就業期間および研究実績期間の重複は多重に

計上しない。その他、大学等への入学前の実績期間や複数の大学等での修学の取り扱い等については事務局に事前に問い合わせること。

- 別表の受験資格評点基準に従って総合点が80点以上に達していること。
 - 上記のうち、基準に満たない要件があるものについても、理事長が特に認めた場合、受験資格を与える場合がある。
- 認定試験は原則として年1回実施し、筆記試験とする。
 - 受験料は3万円とする。
 - 資格審査および試験実施細目については別に定める。

4. 認定

- 合格者は認定を受けるために認定料を支払わなければならない。認定料は2万円とする。
- JSOT 認定トキシコロジストに適格でない事由が生じた場合、認定を取り消すことがある。

5. 認定資格更新

認定資格取得後5年毎に資格更新を行う。資格更新に関する細則は別に定める。

6. その他

この規約の変更は教育委員会の議を経て、JSOT 理事会の承認を得るものとする。

付則 平成 24 年 1 月 1 日改訂の本規定は同日から施行する。

(付) 日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジスト受験資格のための評点基準

種別	評点項目	参加	発表 ¹⁾
論文	毒性学関連論文 ²⁾		10 (5) / 編
学会活動	JSOT 学会 JSOT 認定学会 ³⁾ JSOT 認定講習会 ⁴⁾	10 / 回 5 / 回 5 / 回	10 (5) / 回
JSOT 主催講習会	基礎教育講習会 (1998 年以降) ⁵⁾ 生涯教育講習会	40 / 回 5 / 回	

- 発表におけるかっこ内数字は筆頭者でない共同発表の点数を示す。
- レフリー制度が整っている学術誌に限る。
- IUTOX, ASIATOX, SOT, EUROTOX, JSOT 共催学会, JSOT 協賛 (後援は除く) 学会
- 日本学術会議トキシコロジー分科会シンポジウム, 応用トキシコロジーリカレント講座等
- 1997 年以前の参加は 10 / 回

日本毒性学会認定トキシコロジストの認定資格更新に関する細則

平成 12 年 6 月 29 日制定
平成 15 年 7 月 19 日改正
平成 19 年 1 月 16 日改正
平成 21 年 7 月 5 日改正
平成 23 年 1 月 14 日改正
平成 24 年 1 月 1 日改正

1. 本細則は日本毒性学会（JSOT）認定トキシコロジストの認定制度規定に基づき制定されたものである。
2. 認定資格の継続を希望する者は、理事長宛に資格更新の申請を行うものとする。
3. 資格更新者は下記の基準を満たす者とする。
 - (1) 資格更新申請時にも JSOT 会員であること。
 - (2) 資格更新申請時において、過去 5 年間に別に定める評点基準に従って総合点が 80 点以上であること。
 - (3) 資格更新時に実施する資格更新試験に合格すること。ただし、本試験は過去 5 年間に出题された認定試験問題の中から認定試験小委員会で選出した 100 題を申請者に送付し、一定期間後に回収することで実施する。80 題以上の正答を以て合格とする。なお、この基準に満たなかった者においては一回を限度に再試験を行い、その結果正答が 80 題以上に達した場合には合格とする。
4. 理事長は資格更新申請を受け、教育委員会委員長を経て認定試験小委員会に審査を委嘱する。
5. 認定試験小委員会は資格更新申請者からの申請が上記 3. の基準を満たしているか否かを審査し、その結果を教育委員会委員長を経て理事長に答申する。
6. 理事長は答申案を理事会に諮り、資格更新者を決定し、申請者に通知する。
7. 申請者は通知日より 2 ヶ月以内に更新料（当分の間 2 万円）を学会に納入する。
8. 理事長は更新料が納入されたことを確認し、認定書を交付する。
9. 資格更新時に止むを得ざる理由により手続きが出来なかった者の取り扱いについては理事長が判断する。
10. 細則の変更は認定試験小委員会の議をへて、理事会の承認を得る必要がある。

付則：平成 24 年 1 月 1 日改訂の本規定は同日から施行する。

評点基準

カテゴリー	評点項目	評点	上限（5年間）
I	認定試験の問題作成	20 / 回	80
II	学会活動 JSOT 参加 / 発表 JSOT 認定学会 ¹⁾ 参加 / 発表	5 / 回	25
III	JSOT 公認講習会 ²⁾ （講師を含む）	5 / 回	25
IV	毒性学関連論文 ³⁾	5 / 編	25

1) IUTOX, ASIATOX, SOT, EUROTOX, JSOT 共催学会, JSOT 協賛（後援は除く）学会

2) JSOT 基礎教育講習会・生涯教育講習会, 日本学術会議トキシコロジー分科会シンポジウム, 応用トキシコロジーリカレント講座等

3) レフリー制度が整っている学術誌に限る

2012年4月1日 印刷

2012年4月1日 発行

発行人 菅野 純

編集人 永沼 章

発行所 日本毒性学会

編集部 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
東北大学大学院薬学研究科生体防御薬学分野内
TEL (022) 795-6870 FAX (022) 795-6869
E-mail : jts-ed@jtoxsci.org

学会事務局 〒160-0016 東京都新宿区信濃町35 信濃町煉瓦館
財団法人 国際医学情報センター内
日本毒性学会事務局
TEL (03) 5361-7075 FAX (03) 5361-7091
E-mail : jsot@imic.or.jp
振替 00150-9-426831

ホームページ <http://www.jsot.gr.jp>

印刷所 株式会社仙台共同印刷

〒983-0035 仙台市宮城野区日の出町二丁目4-2
TEL (022) 236-7161